2020/04/08

ロクディム式 #StayHome
アナログ・オンライン・カードゲーム「STORYTELLERS」について

「この瞬間を一緒に笑おう」を合言葉に日本各地で即興芝居 × 即興コメディパフォーマンス活動をするロクディムが、**自宅にいながら仲間と繋がり物語を「共創」するクリエイティブ系コミュニケーション即興カードゲーム「STORYTELLERS（ストーリーテーラーズ）」**を考案しました。

◉ ゲーム概要

離れていてもバラバラじゃない「この瞬間を一緒に笑おう」
自分の内なる想像力を広げ、仲間のアイデアと掛け合わせながら紡ぐ即興の物語。時に笑いがこぼれ、時に涙があふれ、場所を超えて距離を超えて、想像力で繋がる創造ゲームです。「奇跡」のような見事な展開や「この先どうする？」と困ってしまう瞬間を、遊びごころで楽しみながら唯一無二の？ 奇想天外の？ 予定不調和の？ オリジナルストーリーをアナログ・オンラインで物語れ！
ゲームデザイン：カタヨセヒロシ（ロクディム共同主宰）

◉ ルール説明

１　：　参加者がチームとなって、共同で物語を創る（語る）ゲームです。
２　：　一般的なゲームにある「競争」ではなく、「共創」を楽しみます。
３　：　共同で物語をつくる＝共同執筆・共同創作ということで「STORYTELLERS」という複数形のタイトルになっています。
４　：　まず、参加者の中で物語を語る順番を決めます（５人いたら、１番〜５番というように）。
５　：「１番」の人から物語を語ります。
４　：　語る人には時間制限があり「１〜２分」の持ち時間となります。
５　：　持ち時間が過ぎたり、いい感じの区切りの時に、次（２番）の人へ物語を受け継ぎます。
６　：　次（２番）の人は、前の人から受け継いだ物語の「続き」を語ります。
７　：　これを繰り返し、順番に物語を語っていきます。
８　：　また、語っている最中に、必ず「STORYTELLERS カード」を引きます。
９　：「STORYTELLERS カード」には「言葉・ひと言」が書かれています。
　　※ロクディムの公演でおなじみ観客の皆さんに書いてもらう「言葉・ひと言」と同じです※
１０：「STORYTELLERS カード」に書かれている「言葉・ひと言」を自分の物語にうまく取り入れて物語を進めてください。
１１：　３周ほどしたところで物語が終了します。
１２：　どんな物語になったか、わいわい感想を言い合いましょう。
１３：　最後に、誰が一番いい「ストーリーテーラー」だったかを決めます。

◉ プレイ詳細

時間：９０分ほどを想定
　　ルールや即興で物語を作るコツなどの説明をしながら進めますのでお芝居などをしたことがない初めての方でも大丈夫です。
　　適時休憩をとりながら進めます（プレイ時間は調整可です）
人数：５名ほどが適当だと想定しています（適宜相談）
　　この他、ファシリテーターとしてカタヨセ（１人）が入ります。

◉ プレイ条件

・このゲームは Zoom アプリを使用してオンラインでおこないます
・PC、Mac、タブレットやスマホなどを各自用意して、Zoom アプリをダウンロードしてください。
　※事前に参加者へ「招待 URL」を送ることができるのでそこからアプリのダウンロードもできます※
・Zoom が使用できるインターネット環境、カメラ・マイク環境をご用意ください。

◉ このゲームを考案した理由（カタヨセヒロシ・ロクディム共同主宰）

コロナウィルスの影響でこれまで当たり前にできていた他者との触れ合いや関わりを持つ機会が激減しています。人と人が集まり、舞台で行われる演劇や音楽を楽しむことも、そういう場を設定することも自粛せざるを得ない現状があります。また、ウィルスという目に見えないものへの不安や恐れ、先行きの見えない未来へのストレスを感じている人も多いと思います。そういった現状において、文化・芸術は不要なものなのでしょうか？ 僕は違うと考えます。文化芸術は「こころ」の栄養です。規則正しい生活とバランスのとれた食事が健康によいことは当然ですが、では「健康」とはなんでしょうか？ 僕は「身体の健康」と「こころの健康」の２種類があると思うのです。その「こころの健康」のために、「バランスのとれた食事に当たるもの」が必要です。それを担うのが文化・芸術です。多様化した現代には多様な文化・芸術があり、その中で表現活動をする１人として、今、自分にできることは何か？を考えました。その１つがこのオンライン・カードゲームです。これまでロクディムとして日本各地で行なった「即興芝居 × 即興コメディ」の公演形態や経験を生かし、リアル（実際）では集まることができない現状でも、インターネットを使ってオンライン上で集まることができます。そこで行われるこのゲーム（創作ゲーム）を通じて、関わり合い、笑い合うことのできる時間がつくれたらそれは「こころの栄養」に繋がるのではないかと思い、考案しました。僕は人と人が関わり合うことで生まれるエネルギー・創造力を信じています。それは時に、何かの行動をする時の原動力になったり次へと繋がる発想になったりします。誰かと同じ時間・経験を共有することの大切さもあります。大きな刺激を受ける時もあればこころが安らぐ時もあると思います。リアルでは離れていて会えないけれど、今を、この時代を、共に生きている仲間として、離れていてもバラバラじゃないことを感じてもらえたら嬉しいです。

◉ 期待できるゲーム体験

１）イメージや想像を言語で表現し、他者へ伝える経験
参加者は自分の持ち時間の中で「即興で物語をつくる・語る」ので、想像したイメージやアイデアを「言語」で表現していきます。初めは慣れないかもしれませんが、何度かゲームを繰り返すことで「言語化する＝相手にわかりやすく伝える」ことに慣れていくことができます。

２）イメージや想像を発想し、自分で物語をつくるという経験
即興で物語を作るので、想像力を広げ自ら発想する必要があります。そして大事なのは、自分が語らなければ物語は続かないということ。物語は「誰かから与えられるもの」ではなく「自分たちで作っていくもの」という経験ができます。誰だって、自分にとって楽しくて嬉しくてワクワクするような物語のほうが楽しいですよね。

３）想定外に対応し、うまくいく・いかないを楽しむ経験
即興で物語を作る中で「言葉・ひと言」が書かれたカードを引いてその言葉を物語に取り入れて使っていきます。物語の流れとは関係ない「言葉」なのかピタリとハマる「言葉」なのか、何が出るかわかりません。いずれにせよ、想定外の「もの」が来た時にどう対応するか？うまくいけば皆で感心し、全然うまくいかなければ皆で大笑い、仲間と一緒に楽しみながら体験していきます。

４）自分と相手は当たり前に違う存在、それを生かし合う経験（多様性）
１人ずつ持ち時間の中で物語を語り、それを受け継いで物語を続けていくことは「自分の視点だけでない物語・世界を受容していく」ことです。それぞれの「視点や発想の違い」が重なって物語が紡がれていきます。これは、自分とは違う存在である他者（相手）との共同作業・遊び合いです。このゲームを通じて、自分と違う存在を否定するのではなく、当たり前に受容し、違いを重ね合っていく楽しさを体験していきます。

本件に関するお問い合わせ

ロクディムオフィス　カタヨセヒロシ（ロクディム共同主宰）
メール　info@6dim.com　／　電話　090-6137-2272
https://6dim.com

カタヨセヒロシ

ロクディム共同主宰

即興コメディパフォーマンス集団「ロクディム」共同主宰。「この瞬間を一緒に笑おう」を合言葉にその場で「芝居」をしながら「物語」をつくる「即興芝居 × 即興コメディ」パフォーマンスを行い、一般的な演劇とは一味違った「舞台と客席のやりとり」や「一体感・没入感・共感」が体験できると好評を得ている。より多くの人へ即興芝居を知ってもらうためロクディム Web サイトで不定期連載中の「はなしの時間」の企画・構成を手がけ異分野のゲストを迎える対談や即興芝居を生かしたワークショップや講演なども数多く行なっている。他にも CM やナレーション、ラジオ出演や映画出演など幅広く活動している。NHK 東日本大震災プロジェクト「スマイルキャラバン 明日へ 1min.」、NHK 名古屋「さらさらサラダ」、東海テレビ「みんなのニュース One」、テレビ東京「タカトシの涙が止まらナイト」、テレビ神奈川「おまえテレビ出てるってよ！！」等に出演。

ロクディム（6-dim+）

これは演劇なのか？お笑いなのか？アートなのか？演者と観客がこんなにも一緒になって笑う舞台がこれまであっただろうか？

「この瞬間を一緒に笑おう」を合言葉に、即興芝居 × 即興コメディ＝即興パフォーマンスを行う男６人組。写真左から小田篤史・渡猛（共同主宰）・宍戸勇介・りょーちん・カタヨセヒロシ（共同主宰）・名古屋淳。関東を拠点に日本全国で活動、これまで２７都府県で公演やワークショップを行なう。「この瞬間を一緒に笑おう」を合言葉に行われる脚本やあらすじのない「即興」のパフォーマンスは、一般的な演劇とは一味違った「舞台と客席のやりとり」や「思ってもなかったハプニング」を生かすことで生まれる「一体感」や「唯一無二のライブ体験」ができると好評を得ている。2008 年ロクディム結成。メンバーは、その 10 年ほど前から当時日本ではほとんど知られていなかった即興芝居のパフォーマンスを確立すべく試行錯誤を繰り返し多数の公演を行っていた仲間でもある。2020 年で結成 12 年目。

◉2011 年に起こった東日本大震災後、カタヨセヒロシの故郷である福島県いわき市で 2011 年 6 月・7 月と公演を実施。即興芝居の「フットワーク軽く公演ができる」特徴を生かし、劇場ではない会場で公演を行う。その後、継続的に福島での活動を続けながら日本各地へ活動を広げる。
◉2014 年末に NHK「スマイルキャラバン」に出演。気仙沼（宮城）と陸前高田（岩手）での公演・ワークショップの模様が放送された。他、テレビ東京、テレビ神奈川、NHK 名古屋、東海テレビ等に出演し、即興芝居を多くの人へ知ってもらう機会づくりをしている。また「即興で芝居をする事」が創造性や自己表現、協調性等の分野で注目され、教育機関や企業向けにコミュニケーションを目的としたワークショップ活動等も行っている。
◉2018 年、全国縦断ツアーとして４都市５会場の劇場・ホールで公演を実施。「劇場空間だからこそできる即興表現」を追求し全国各地へ即興の笑いを届けた。
◉2019 年、これまでの経験を根っこにしつつ、即興芝居を新しく進化させるため、より実験的な公演「手紙」を行う。